

- 11.現世の富にあずかって嘘付き呼ばわりする者たちをわれに委ねて、暫くの間かれらを猶与しなさい、
- 12.本当にわれの手元には鎖があり、また炎もある。
- 13.(喉に)病える食物があり、また痛ましい懲罰がある。
- 14.その日、大地と山々は震動し、山々は崩れ流れて、砂の固まりになるであろう。
- 15.本当にわれは、あなたがたの証人とするために、使徒をあなたがたに遣わした。われが且つて、フィルアウンに一人の使徒を送ったように。
- 16.だがフィルアウンはその使徒に従わなかったので、われはかれを厳しく罰して破滅させた。
- 17.もしあなたがたが依然として(アッラーを)拒否するなら、子供が(恐怖のあまり)白髪になる日、あなたがたはどうして自分を守れようか。
- 18.その日、天は裂け散るであろう。かれの約束は、必ず完遂されるのである。
- 19.本当にこれは訓戒である。それで望む者に、主への道を取らせなさい。
- 20.主は、あなたが夜間の殆ど3分の2、また(ある時は)2分の1、または3分の1を、(礼拝に)立つことを知っておられる。またあなたと一諸にいる一団の者も同様である。アッラーは、夜と昼を妥当に計られる。かれはあなたがたがそれを計れないことを知り、あなたがたを慈しまれる。だからあなたがたは、クルアーンを無理にならない程度に読め。かれは、あなたがたの中病める者のあることを知っておられる。また或る者はアッラーの恩恵を求めて、地上を旅し、或る者はアッラーの道のために戦っている(ことを)。だからそれを無理にならない程度に読め。礼拝の務めを守り、定め喜捨をなし、アッラーに立派な選付け(信仰のための散財)をしなさい。あなたがたが、自分の魂のために予め行う、どんな善いことも、アッラーの御許でそれを見い出そう。その(善行の)報奨は、最善にして最大である。あなたがたはアッラーの御救しを請い求めるがいい。本当にアッラーは寛容にして慈悲深くあられる。

## SURA 74.包る者章〔アル・ムッダッスイル〕

慈悲あまねく慈愛深きアッラーの御名において。

- 1.(大衣に)包る者よ、
- 2.立ち上って警告しなさい。
- 3.あなたの主を讃えなさい。
- 4.またあなたの衣を清潔に保ちなさい。
- 5.不浄を避けなさい。
- 6.見返りを期待して施してはならない。
- 7.あなたの主の(道の)ために、耐え忍びなさい。

- 8.ラッパが吹かれる時、
- 9.その日は苦難の日。
- 10.不信者たちにとり、安らぎのない（日である）。
- 11.われが創った者を、われ一人に任せなさい。
- 12.われは、かれに豊かな富を授け、
- 13.またその回りに、息子たちを侍らせ、
- 14.かれのために、（物事を）円満容易にした。
- 15.それでもかれは、われが更に豊かにするよう欲した。
- 16.断じて許されない。かれは、わが印に対し頑迷であった。
- 17.やがてわれは、酷い痛苦でかれを悩ますであろう。
- 18.かれは想を練り、策謀した。
- 19.かれは滅びるであろう。何と（惑意をもって）かれらは策謀したことよ。
- 20.重ねていう。かれは滅びるであろう。何とかれは策謀したことよ。
- 21.その時、かれはちらっと（クルアーンを）眺め、
- 22.眉をひそめ、苦い顔をして、
- 23.それから、高慢に背を向けて去った。
- 24.かれは言った。「これは昔からの魔術に過ぎません。
- 25.どう・ても人間の言葉に過ぎません。」
- 26.やがてわれは地獄の火で、かれを焼くであろう。
- 27.地獄の火が何であるかを、あなたに理解させるものは何か。
- 28.それは何もかも免れさせず、また何もかも残さない。
- 29.人の皮膚を、黒く焦がす。
- 30.その上には19（の天使が看守る）。
- 31.われが業火の看守として、天使たちの外に誰も命じなかった。またかれらの数を限定したこととは、不信心の者たちに対する一つの試・に過ぎない。（それにより）啓典を授けられた者たちを確信させ、また信じる者の信仰を深めるためである。また啓典を授けられた者や信者たちが、疑いを残さず、またその心に病の宿る者や、不信者たちに、「アッラーはこの比喩で、何を御望・になるのでしょうか。」と言わせるためである。このようにアッラーは、御自分の望・の者を迷わせ、また望・の者を導かれる。そしてかれの外誰もあなたの主の軍勢を知らないのである。本当にこれは人間に対する訓戒に外ならない。

- 32.いや、月に誓けて、
- 33.退こうとする、夜に誓けて、
- 34.また輝こうとする、暁に誓けて（誓う）。
- 35.それは大きな（徴の）一つであり、
- 36.人間への警告。
- 37.あなたがたの中、前に進むことを望む者、また後に残ることを願う者への（警告である）。
- 38.それぞれの魂は、その行ったことに対し、（アッラーに）担保を提供している。
- 39.右手の仲間は別である。
- 40.（かれらは）樂園の中において、栗いに尋ね合うであろう。
- 41.罪を犯した者たちに就いて、
- 42.「何が、あなたがたを烈火の中に導いたのですか。」と。
- 43.かれらは（答えて）言う。「わたしたちは礼拝を捧げていませんでした。
- 44.わたしたちはまた、貧者を養いませんでした。
- 45.わたしたちは空論の徒と共に無駄話に耽り、
- 46.常に審判の日を否定していました。
- 47.遂に真実が、わたしたちに到来しました。」
- 48.それで執り成す者の執り成しも、かれらに役立たないであろう。
- 49.一体訓戒から背き去るとは、かれらはどうしたのでであろう。
- 50.かれらは丁度獅子を見て恐怖に陥ったロバのように、
- 51.一目散に逃げ出すかのようであった。
- 52.いや、かれらはそれぞれ開かれた書巻が授けられることを望んでいる。
- 53.いや断してそうではない。かれらは来世を恐れていないのである。
- 54.いや、これは正に訓戒である。
- 55.だから誰でも欲する者には、それを肝に銘じさせなさい。
- 56.だが、アッラーが望まれる者の外は、留意しないであろう。かれは畏るべき御方よく許して下される御方である。

## SURA 75.復活章〔アル・キヤーマ〕

慈悲あまねく慈愛深きアッラーの御名において。